

☆刈取指導会が行われました☆ 9月4日から10日までの7日間、島内100か所の圃場で、稲刈り指導会が行われました。普及センターやJA職員からは「稲刈りは刈取時期が早い場合、青未熟粒ややせ米が多くなる。また、刈り取りが遅くなった場合、胴割米の増加が心配されるため、適期に刈り取りを行うことが重要だ」と説明があり、参加者は適期刈取の大切さについて確認しました。

美味しいお米をお届けするために、最後まで気を抜かずに頑張ります。



刈取適期版を使用し刈取時期を説明している様子

佐渡産コシヒカリ刈り取り適期見本版



刈取適期版は農家が刈取適期を確認する時に使うものです。刈取適期は、籾の90%が黄化した時期から穂軸に青みが残っている頃になります。

☆いよいよ稲刈りが始まりました☆

9月に入り、いよいよ佐渡米の稲刈りが本格的に始まりました。お盆期間中に、日照時間が短く涼しかったため、こしいぶきとコシヒカリについては登熟期間が長くなり、稲刈りの刈取時期は予定より少し遅れました。9月28日現在、稲刈りは全体の7割程度が終わりました。



黄金色に色づいた稲穂で、美味しそうに見えます。

広い田んぼの中を気持ち良さそうに稲刈りしている様子

☆29年産米の検査状況☆

9月12日に、29年産米の初検査が行われました。コシヒカリ（備蓄米）や早生品種（こしいぶきや五百万石等）の合計734袋を検査し、1等米比率は100%でした。検査員からは「コシヒカリの検査数量は少ないが、品質は期待される。こしいぶきの粒張り及び粒揃いは良い。今後、刈り遅れに注意するとともに適正な乾燥と適正な流量による丁寧な調整作業を心掛けていただきたい」との講評がされました。※1等米比率 コシヒカリ88.2%、こしいぶき79.5%(9月25日現在)



美味しいお米をお届けできるように、しっかりと検査をしています。

☆ラグビー部に「朱鷺と暮らす郷」米を提供☆

9月9日に、慶應義塾大学のラグビーグラウンドで、佐渡産コシヒカリ「朱鷺と暮らす郷」の贈呈式が開催されました。これは慶應義塾大学のラグビー部が試合に勝てる体づくりを目指す「お米プロジェクト」の取り組みを応援して行われたものです。佐渡市とJAからは「朱鷺と暮らす郷」米（2.1t）と佐渡牛乳とコーヒー牛乳120本が手渡されました。この日は地域の小学生や保護者を招いた交流イベントも併せて行われており、参加した約230人に「朱鷺と暮らす郷」米を使ったおにぎりが振る舞われま



贈呈式では佐渡市とJAから米俵と牛乳パックの模型が手渡されました。

「朱鷺と暮らす郷」米の贈呈式の様子



コシヒカリ(左)とこしいぶき(右)をカルトンにのせた様子

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにっき」

で佐渡の情報が見られます。

<https://www.facebook.com/jasadotanbo>

※QRコードについてはこちら➡



編集人：佐渡農業協同組合
営農事業部米穀販売課 山田・藤巻
beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp

発行日：平成29年9月